



古谷康典が問う 小中学校のトイレの洋式化について

問 令和5年10月11日付の下野新聞社記事で学校トイレの洋式化率について県平均は71.1%、当町は66.4%でした。特に中学校の洋式化率は50%、小中学校全体の屋外トイレの洋式化率は11%ということなので生徒やPTA、地域住民の利用にも支障をきたすことが予想されます。早期改善が望まれます。

答 教育長 下野新聞に掲載された該当記事は、文部科学省が実施した令和5年度公立学校施設トイレの洋式化の状況調査結果によるもので、芳賀町の洋式化率は、栃木県平均の71.1%を下回る66.4%となっています。

学校トイレの洋式化に関して文部科学省や県が定めた法的基準はありませんが、内閣官房より防災機能強化の観点から避難所となり得る全国の公立小中学校には95%洋式化が努力目標と示されています。

各学校での和式の利用は少ないようですが、洋式だけでも混雑することはなく、便器の必要数は概ね満たしていると思われます。一時的な混雑を考慮して、トイレ内に複数ある和式は洋式化の検討が必要だと考えておりますが、肌が便器に触れる洋式を好まない児童生徒もおりますので、全てを廃止するのではなく、一定数確保する(各トイレに1個程度和式を残しながら)必要性も考慮します。

以上を踏まえて、学校と協議の上で快適で安全な学習環境が確保されるよう改修に努めてまいります。



体育施設への冷房施設設置について

問 近年の猛暑のため公共体育館の冷房施設の設置が急務であると思われます。7・8月の武道館は室温40度を超え、芳賀町第二体育館も同様の状態で、夏季の中学生の部活動や一般利用者の熱中症のリスクが懸念されます。冷房に関して町民からの要望も出ています。町民に少しでも良い環境でスポーツを親しんでもらうためにも体育施設への冷房の設置の予定は。

答 教育長 武道館と第二体育館については、芳賀町剣道連盟ほか6団体から猛暑対策に関して望書が出されております。該当の2施設に関しては中学生が体育の授業の他に、各スポーツ教室や災害発生時において避難所としても利用されることから空調設備の整備を検討する必要があると思っています。

問 該当2施設の猛暑対策に関して1つ提案ですが、武道館のトレーニングルームはエアコンが効いておりますが、現状トレーニングルームとしてでなく会議室になっています。トレーニングルームの広さであれば剣道の練習が可能ではないかと思えます。トレーニングルームを貸し出すことは可能でしょうか。

答 教育長 利用状況に応じて、可能であれば借用できるように対応していきたいと考えています。



こえ
聲新成人に聞きました
私のいいたいこと阿部 凌士さん
(ハツ木)

働きやすい町へ

今回、20歳という大きな節目を迎えられたことに、家族や友人、関わってくださった皆さま、そして生まれ育った芳賀町に感謝しています。

私は、生まれてからの20年、芳賀町で育ちました。今まで、大きな病にかかっていないのは、芳賀町のお米や野菜、果物のおかげだと感じています。

芳賀町が豊かな食の面で優れている一方で、工業面では若者の就職先の選択肢が少ないという点もあります。機械工業や化学工業などは豊富ですが、その他の職種が少なく、それが若者が芳賀町を出ていく原因の一つではないかと思えます。若者が就職に困らないくらいの企業を、芳賀町の魅力の田園風景を保ちつつ誘致出来たらと思います。

私も町外で就職しますが、芳賀町の魅力をいろんな方に広めていき、芳賀町をさらに住みやすい町にできたらいいです。

原田 晃介さん
(祖母井)

変化し続ける町

私が今日この日を迎えることができたのは、地域の皆さまや学校の先生方、家族の支えがあったからこそであり、皆さまに深く感謝申し上げます。

私は現在自身の夢をかなえるために、大学で勉学に励んでおり、芳賀町を離れ生活を送っております。この日を機に久しぶりに帰ると、そこには大きな変化がありました。LRTの開業です。その街を駆ける近未来的風貌は目を見張るものがあり、人々に一層の活力を与えるであろうと感じました。しかし、LRTは芳賀町の一部にしか届いておらず、未だに生活の一部になっておりません。この町が時代の先へ変化し続けるためには、情報環境と調和した町のイベントや魅力・文化の拡散に加え、若者が第一となる政策や新たな人材育成の場が必要です。それが若者の増加や活気溢れる町へと繋げることができます。

芳賀町のより一層の発展を心より願っています。

上野 真愛さん
(東高橋)

これからを担う世代として

2023年に、私は無事20歳を迎えることができました。これも、ひとえに家族をはじめとするたくさんの方々支えがあってこそこのことで、心から感謝しています。

私がこれからの芳賀町に期待していることは、生徒一人一人に寄り添った学校生活の提供です。近年、日本全国の不登校者数は増加傾向にあり、栃木県も例外ではありません。町内にも教育支援センターがありますが、全ての生徒に必要な支援が行き届いているわけではないと思います。対応として、デジタル機器を活用したり、学校で行う教育相談以外にも気軽に悩みを話せる場を用意したりするなど、生徒たちの学校生活を向上させるような取り組みを期待したいです。私自身もただ要望を出すだけでなく、将来は人々の支えとなれるように学業に励み、様々な経験を積みたいと思っています。